

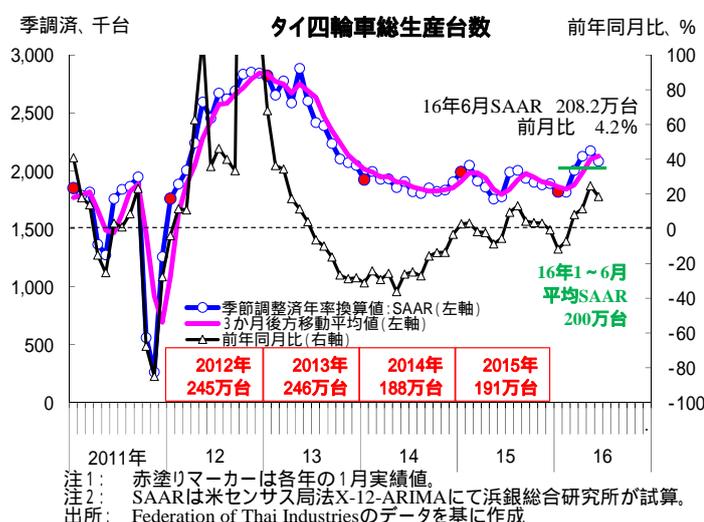
タイ自動車市場月次統計（2016年6月）

16年上期は輸出市場でタイがメキシコに競り勝つ：産業高度化を推進するタイに軍配

16年上期（1～6月）のタイの年率換算生産台数は15暦年実績比5%増の200万台

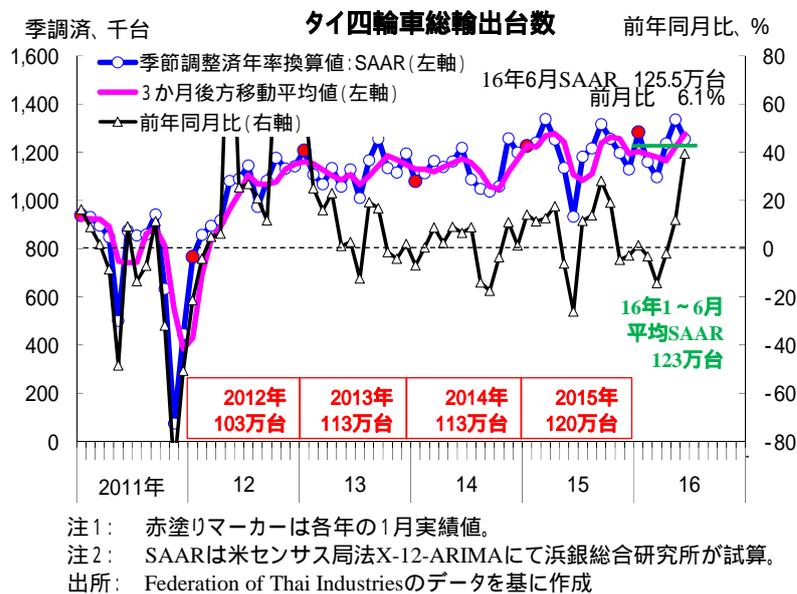
- ・タイ工業連盟(Federation of Thai Industries)が発表した2016年6月の四輪車総生産台数は、前年同月比18.6%増と4か月連続で前年比プラスとなった。また、季節調整済年率換算値(当社試算、以下SAAR)は前月比4.2%減の208.2万台と4か月ぶりに減少したものの、16年上期(1～6月)の生産台数の平均SAARは200万台と前年実績191万台を上回っており、直近数か月は堅調に推移している(図表1)。
- ・なお、直近2か月の間に前年同月比で2桁%の大きな増産となった背景には、前年水準が特殊要因で低かったことがある。すなわち、トヨタ自動車は昨年5月に新型ピックアップトラックの生産を開始したものの、当初はこの新型車を専ら国内向けに出荷していたことから、生産水準が低めに抑えられていた。
- ・6月の総輸出台数は前年同月比39.4%増と2か月連続の前年超えとなったが、SAARは前月比6.1%減の125.5万台と3か月ぶりに減少した(図表2)。もっとも、16年上期の輸出台数の平均SAARは123万台と、15暦年(120万台)の水準を上回っており、今年の前半戦は堅調な結果に終わったと評価できよう。輸出が堅調に推移している背景には、複数の自動車メーカーが新型車の輸出展開を加速させており、マクロ景気悪化に伴う海外需要の減少といった逆風を打ち消していることがある。
- ・6月の国内販売台数は前年同月比9.7%増と3か月連続の前年超えとなったが、SAARは前月比5.7%減の78.8万台と4か月ぶりに減少した。(図表3)。16年上期の国内販売の平均SAARは76万台と15暦年実績(80万台)を下回った。3か月後方移動平均が示すトレンドを見ると、税制改正後(1月1日に新自動車税制導入)に落ち込んだ国内販売は持ち直しの動きが続いている。しかし、上期実績は依然として15年の水準を下回っていることに加え、消費者の景況感には依然として改善がみられないことから(図表4)、国内販売は引き続き楽観できる状況にはないと言えよう。

図表1 6月生産(SAAR)は前月比減も高水準

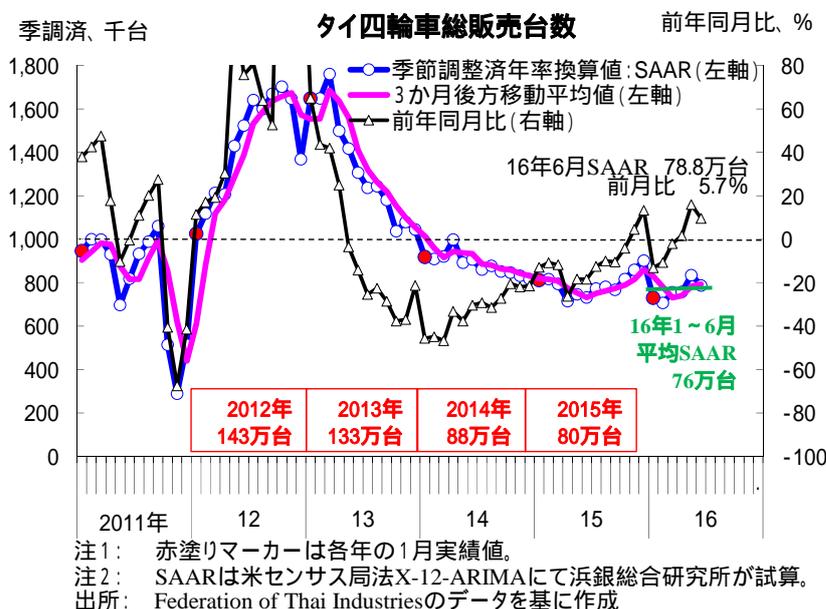


- ・16年上期の自動車統計をみると、日系自動車メーカーにとって輸出基地として重要なタイとメキシコの輸出台数のパフォーマンスに明暗が分かれたことは興味深い。タイの本年上期の輸出台数は前述の通り、15暦年を上回り堅調であった一方、長年にわたって右肩上がりを続けていたメキシコの輸出台数は16年に入り減速し、同年上期の平均SAARは266万台と15暦年水準(276万台)を下回った(図表5)。タイはピックアップトラックの「一本足打法」を脱却すべく、欧米並みの高度な環境性能を備えた乗用車の生産活動に対し減税措置を講じるエコカー政策を敷いたことにより、「世界でもしっかり売れる」車の輸出を促したことで、マクロ景気の減速といった逆風を打ち返している。輸出主導型の市場成長を目指すタイとメキシコの競争は、産業高度化の推進を狙う自動車政策を打ち出したタイに軍配が上がったかたちだ。

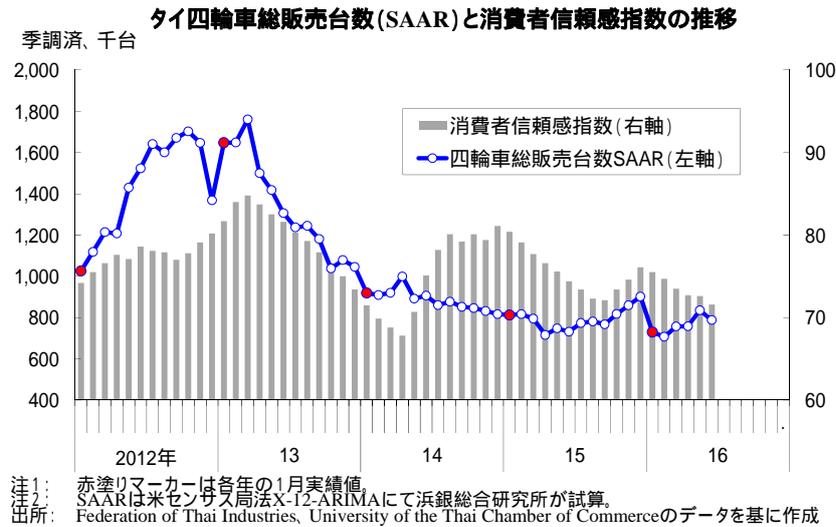
図表2 輸出台数(SAAR)も前月比減少したが年率120万台超えが続く



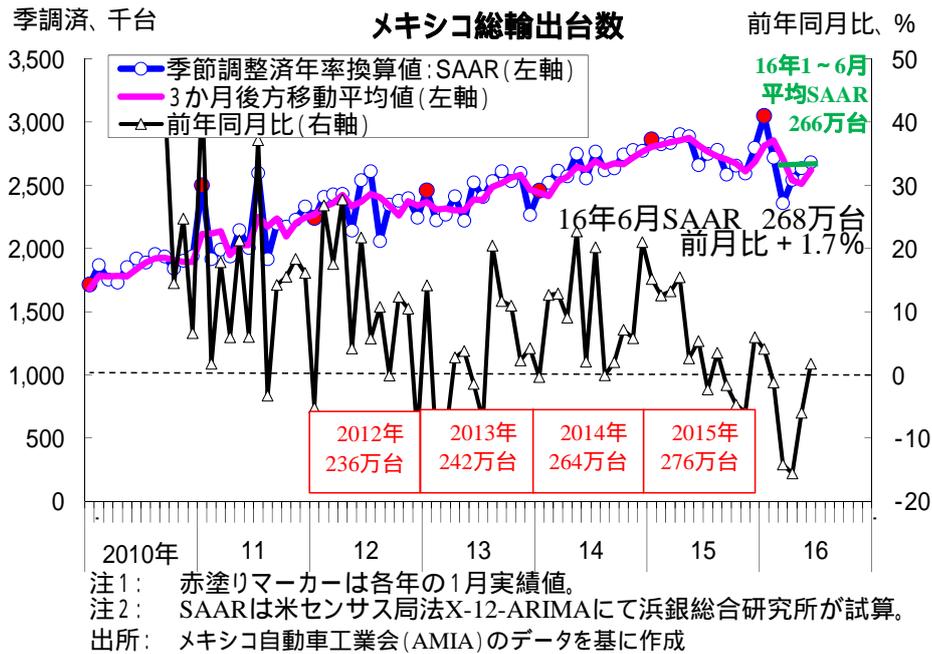
図表3 国内販売の持ち直しの基調が続くが依然低水準で楽観できない状況続く



図表4 消費者の景況感には改善がみられず



図表5 メキシコの輸出は16年に入り減速しタイとは対照的な動き



担当：調査部 産業調査室 深尾三四郎

Tel: 045-225-2375

Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。